

第62回読書感想文コンクール最優秀賞受賞

「こぐまとめがね」を読んで 安田小学校2年生 中野清美

森のおくにめがねをかけた子ぐまが、一人ですんでいました。水あびをするときも夜ねるときもめがねをかけています。わたしは、めがねをすぐく大せつにしているんだと思いました。そのめがねは大すきだったおばあちゃんのものでした。だから子ぐまの目には合いません。まわりのものが、みんなぼやけて見えます。おばあちゃんは、子ぐまをのこして天国に行ってしまった。わたしは、子ぐまがめがねをはずさないのは、おばあちゃんをわすれないんだと思います。もしもわたしが子ぐまだったら、なき虫なので、大すきなおばあちゃんが生んでしまったら、すぐなくと思います。どうして子ぐまはなかないんだろうと思っていたらお母さんが、「かなしすぎると、すぐになけないことがあるんだよ。」と教えてくれました。わたしは、子ぐまもそうだったんだろうかと考えました。だから、わたしが一ばん心にくっついているところは、今まで一どもなかなかった子ぐまが、めがねがこわれてはじめて声をあげてないところですよ。いっしょに読んだお母さんと、「めがねがこわれたこととおばあちゃんが天国に行ったことを子ぐまさんがうけとめられなくて、なくことができたんだね。よかったね。」と話をしました。子ぐまがいないところを見て、むねがキューとなったかんだうしました。おばあちゃんも、これで本とうに天国へ行けたと思いました。

おばあちゃんがいなくなっても、子ぐまは大じょうぶです。うさぎがいます。うさぎは、ずっと子ぐまを見ていました。だからわたしは子ぐまにこう言っただけです。

「子ぐまさん、一人ぼっちじゃないよ。子ぐまさんをいつもしんぱいしてくれていたうさぎがいるよ。さびしくないよ。」

わたしも、うさぎさんみたいにやさしく友だちを見てあげたいなと思いました。